

2021年7月27日

## 東京オリンピック開会式での大坂なおみ選手の聖火台点火について

公益財団法人日本テニス協会 山西健一郎会長 談話

コロナ渦終息の兆しが見えない中ですが、1年延期された東京オリンピックの開会式が23日に東京の国立競技場で行われ、205の国と地域から約1万1000人が参加する平和の祭典が始まりました。

24日から競技が始まった有明テニスの森公園で、私は日本テニス協会を代表して国際テニス連盟をはじめとする多くの海外のテニス関係者の皆様と会場にてご挨拶することができました。その際、「心でつながる」(United by Emotion)をテーマとした開会式への賛辞とともに、多様性と調和を象徴する聖火リレーで、大坂なおみ選手が最終聖火ランナーに選ばれたことに対して「コングラチュレーション」の声を数多くいただきました。

私自身、東京オリンピックのテニス競技で、大坂選手が日本代表の一員として出場することを日本テニス界の栄誉と思うと同時に、最終聖火ランナーに選ばれその任を立派に果たされたことを嬉しく思います。試合を前にこの大役を担われた大坂選手に対し感謝するとともに、東京2020がスポーツの持つ力と感動を広く世界に発信することで、多様性と調和が東京オリンピックのレガシーとして世界に根づくことを期待する次第です。

最後になりましたが、数々の困難を乗り越えてこの歴史的な大会の開催にご尽力されました、国際オリンピック委員会、東京都、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、日本政府、その他の関係団体の皆様に心からの敬意を申し上げます。